



子どもを誰ひとり  
取り残さない



Save the Children

© Natha Yous/ Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
2024年度 年次報告書  
【ダイジェスト版】

# セーブ・ザ・チルドレンは、 世界で100年、日本で35年 以上にわたり活動しています

生きる、育つ、守られる、参加する。  
世界中すべての子どもの権利が実現された  
世界を目指して。



1920年代、セーブ・ザ・チルドレンから食料支援を受けるロシアの子どもたち

## VISION

セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもにとって、  
生きる・育つ・守られる・参加する権利が実現され  
ている世界を目指します。

## MISSION

セーブ・ザ・チルドレンは、世界中で、子どもたちと  
の向き合い方に画期的な変化を起こし、子どもたち  
の生活に迅速かつ持続的な変化をもたらします。

**セ**ーブ・ザ・チルドレンは、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの  
権利」が実現された世界を目指し、現在日本を含め世界約110ヶ国  
で活動する国際NGOです。第一次世界大戦後、多くの子どもが栄養不良  
に陥っていたなか、敵味方を超えて子どもたちを支援しようと立ち上  
がったエグラントイン・ジェブが、1919年にイギリスで創設しました。

日本では、1986年に公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが設  
立。海外では保健・栄養、教育などの分野で活動するほか、紛争や自然災  
害における緊急・人道支援を行っています。国内では、能登半島地震・豪  
雨緊急復興子ども支援といった災害時の緊急・復興支援などを行ってい  
るほか、子どもの貧困問題解決事業や地域NPO支援、政策提言(アドボ  
カシー)など、**子どもの権利を実現するための活動**を行っています。



# 日本を含む世界約110ヶ国で 4,100万人を超える子どもたちに 支援を届けました。

2024年にセーブ・ザ・チルドレンが直接支援を届けた子ども4,117万8,657人

■2024年にセーブ・ザ・チルドレンが活動した国や地域

■は公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが駐在員を  
派遣するなどして事業を実施した国や地域

## 6つのテーマを柱に支援を行っています

### 緊急・人道支援

自然災害や紛争などの影響を  
受けた子どもや地域社会に対  
して、迅速かつニーズに合った  
支援を行い、人々が日常を取り  
戻したり、生活を再建したりで  
きるようサポートします。



### 保健・栄養

妊産婦と新生児のケア、感染症  
や栄養不良の予防と治療、保健  
システムの強化などを通し、す  
べての子どもやその家族が、良  
質な保健サービスを受けられ  
るよう支援します。



### 教育

すべての子どもが質の高い教  
育を受けられるよう、学習環境  
の改善、教員の能力養成、地域  
社会の意識向上、就学前教育  
の普及などの活動を通して支  
援します。



### 子どもの保護

子どもを暴力、虐待、搾取から  
守るための取り組みや、安心・  
安全に成長できる環境づくり  
を、行政や地域社会、保護者、子  
どもたちなどさまざまなステーク  
ホルダーとともに推進します。



### 防災(災害リスク軽減)

防災に子どもたちの声が反映  
され、災害時に子どもたちが主  
体的に行動できるよう、地域社  
会の防災体制を強化。子どもを  
中心とする防災を推進します。



### 子どもの貧困

すべての子どもが生活や成長  
に必要なものやサービス、機会  
を得られ、可能性を發揮できる  
よう、直接支援や社会啓発、政  
策提言を通し、子どもの貧困問  
題の解決に取り組んでいます。



## 海外での活動

### 緊急・人道支援



人道危機の影響が深刻なパレスチナ・ガザ地区、ルーマニアやイエメン、シリア、バングラデシュ、モザンビーク、南スーダンなどで子どもたちやその家族へ緊急物資や食料支援、子どもの保護、教育、保健・栄養などの分野で支援しました。



トルコ・シリアなど地震の影響を受けた子どもたちへ精神保健・心理社会的支援(こころのケア)を実施したほか、モンゴルでゾドによる寒雪害の影響を受けた子どもとその家族へ現金支援などを行いました。また、「いのち・みらい貯金箱」を活用し、自然災害や紛争などの影響を受けた世界各地の子どもたちに迅速に支援を届けました。

### 教育



モンゴルでは、障害や貧困、言語の違いなどにかかわらず、すべての子どもが質の高い教育を受けられるよう、小中学校でインクルーシブ教育を推進しています。また、モンゴル教育省と連携し、eラーニングなどを活用し教育の質を向上させる事業を行っています。



パキスタンで、洪水の影響などで学校に通えない子どもたちに学用品を配布したほか、学校に通うことが困難な状況にあるアフガニスタン難民とパキスタンの子どもたちに対して現金支援などを実施しました。また、モザンビークでは、青少年に環境にやさしいビジネスを学ぶ研修などを実施しました。

### 子どもの保護



カンボジアで、小学校で子どもに対する暴力の根絶と予防を目指し活動したほか、モンゴルでは女子を暴力や搾取から保護するための活動を行いました。また、カンボジアやラオスでは、地域住民が対話や集会を通して、子どもに対する暴力や安全上のリスクを特定し、予防と対応に向けた行動計画を策定、実施しました。

### 子どもの貧困



バングラデシュでは、青少年を対象にバスを活用した移動式研修センターで研修を実施し、研修後に起業・就業を支援しました。また、モンゴルでは、地方に暮らす若者の約3割が定職に就けないことから、地方の若者を対象に起業スキルを養成する講座を提供し、地方社会をけん引する人材を育て、貧困削減や失業率の低下を目指しています。

### 保健・栄養



ウガンダで、栄養不良が深刻な地域で生計向上のための農業指導を実施したほか、村の保健医療施設と協力し、栄養不良の早期発見のための取り組みを開始しました。ベトナムで、少数民族の家庭への生計向上支援と母子の栄養改善事業を実施。また、青少年の性と生殖に関する健康への取り組みを進めています。

### 防災(気候変動)



インドネシアのスマトラ島でWWF(世界自然保護基金)と連携し、森林減少が進む地域で生計向上・教育・子どもの保護を統合した介入モデルを構築しています。また、モンゴルで子ども参加型の植林事業を実施し、子どもたちが植えた木が成長し、将来緑豊かな環境を築く礎となるよう、継続的な支援と活動の拡大を目指しています。

## 日本国内での活動

### 子どもの貧困問題解決



最新の日本の子どもの相対的貧困率は11.5%\*とやや改善傾向にあるものの、物価高騰などの理由で、日々の食事や生活に必要なものを準備することが難しい世帯への深刻な影響が懸念されます。そこで、経済的に困難な状況にある世帯へ、**新入学や高校生活のための給付金、新生児育児用品の提供、体験の機会提供**のほか、長期休暇期間の子どもの食を支えるために、のべ約1万世帯へ**「子どもの食 応援ボックス」**を届けました。

\*厚生労働省「2022年国民生活基礎調査」



5年ぶりに全国3万人以上の子どもと大人を対象とした**「子どもの貧困と子どもの権利に関する全国市民意識調査」**を実施し、メディアから関心が寄せられました。直接支援を通じた子どもや保護者への調査も行い、省庁や国会議員に政策改善を働きかけました。

### 地域NPO支援



子育て世帯の孤立、虐待の深刻化、相対的貧困などの課題に加え、物価高騰などの影響も重なり、子どもたちの育ち、まなび、遊び、参加などの基本的な権利が保障されにくい状況が続いています。そのため、地域で子どもとともに活動する非営利団体(NPO)に対して**資金助成、組織基盤強化、子どもの権利保障のための環境づくり**を行い、日常生活における子どもの権利の保障を目指しています。

### 子どもを中心とした防災



自然災害などの緊急時に子どもの命が守られ、子どもの権利に基づいた支援を行うには、子どもに対しても災害時の行動や備えを知ってもらうことが必要です。そのため、**子どもと大人双方に防災イベントやワークショップ、研修などを実施**したほか、佐賀県唐津市と熊本県天草市・水俣市の**放課後児童クラブ(学童保育)計108ヶ所へ防災備品を提供**しました。

### 能登半島地震・豪雨緊急復興支援



能登半島地震の被災地域に入り、衛生用品や遊び道具などが入った**緊急子ども用キットの配布、学校などへの備品の提供、給食補食支援**といった、さまざまな支援を行いました。また、子どもたちが安心・安全に過ごせる空間**「こどもひろば」**を実施しました。奥能登豪雨の被害のあった地域では、ニーズにあわせた支援活動も行いました。



2024年7月、被災地域の子どもたちの地震や復興についての思いや意見を聴くため、**小学4年生から高校生世代を対象にアンケート調査を実施**し、2,053人から回答がありました。調査結果を石川県知事、県教育委員会などに提出し、**子どもたちの声の反映を提案**しました。また、「**能登子どもサポート給付金**」として約4,000人の子どもたちに給付金を提供しました。

## 政策提言・社会啓発(アドボカシー)活動

### 子どもの権利教育を広げる

学校の授業やワークショップでも使える教材**「こどものケリリ」**の制作・普及を進めています。千葉県の小学校で、Jリーグの柏レイソルと連携し、**子どもの権利を選手たちと一緒に学ぶ授業も実施**しました。



### 子どもたちの社会参加を後押し

子どもたちに子どもの権利を伝えるウェブサイト**「あすのコンパス」**を公開しました。子どもの権利を学ぶゲーム、子どもを取り巻く社会課題に関する読み物、漫画などを掲載しており、子ども・ユース世代がスムーズに社会に参画していくためのきっかけを提供します。



### 子どもの権利条約フォーラムの開催

子どもの権利について、子ども自身や子どもに関わる政策決定者、市民団体、教育関係者、メディアを含め、広く社会全体に向けて理解促進や意見交換の場を創ることを目的とした、「**子どもの権利条約フォーラム2024 in 東京**」の事務局を務め、**実行委員会やボランティアを含め全国からのべ2,316人が参加**しました。



## 持続可能な開発目標(SDGs)への取り組み



持続可能な開発目標(SDGs)は、貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。セーブ・ザ・チルドレンも策定に関わり、2015年に国連で採択されました。私たちは事業やアドボカシーを通して、SDGs達成に向けた活動を推進しています。

## 2024年度決算報告

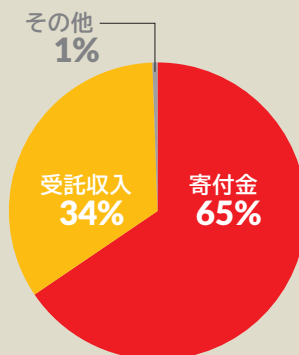
経常収益 33億1,760万円

経常費用 35億 611万円

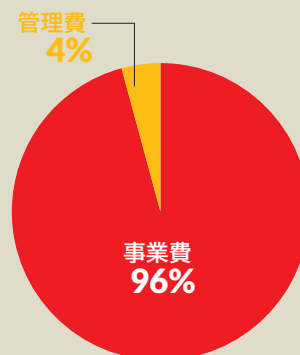
個人の皆さまから、毎月の継続的なご寄付「SCサポート」を通じて約2万200人にご支援いただいたほか、緊急支援や季節の寄付キャンペーンなどを通して、多くの方に活動を支援いただきました。また、学校や市民グループからの募金活動を含め、734の企業・団体からご寄付いただきました。

※千円未満は切り捨てています。

経常収益の割合



経常費用の割合



## 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F  
TEL 03-6859-0070 ウェブサイト [www.savechildren.or.jp](http://www.savechildren.or.jp)

ご寄付はこちら：郵便局(ゆうちょ銀行) 口座番号:00900-1-120760  
加入者名:セーブ・ザ・チルドレン子ども基金【クレジットカードでのご寄付はウェブサイトから】  
ご寄付についてのお問い合わせ：TEL 03-6859-0068 (平日のみ)

2025年6月発行

年次報告書 完全版をウェブサイトで公開しています。

表紙写真:

セーブ・ザ・チルドレンの支援により  
修繕された学校に通う子ども  
(カンボジア)



この冊子はFSC®認証紙を使用しています。